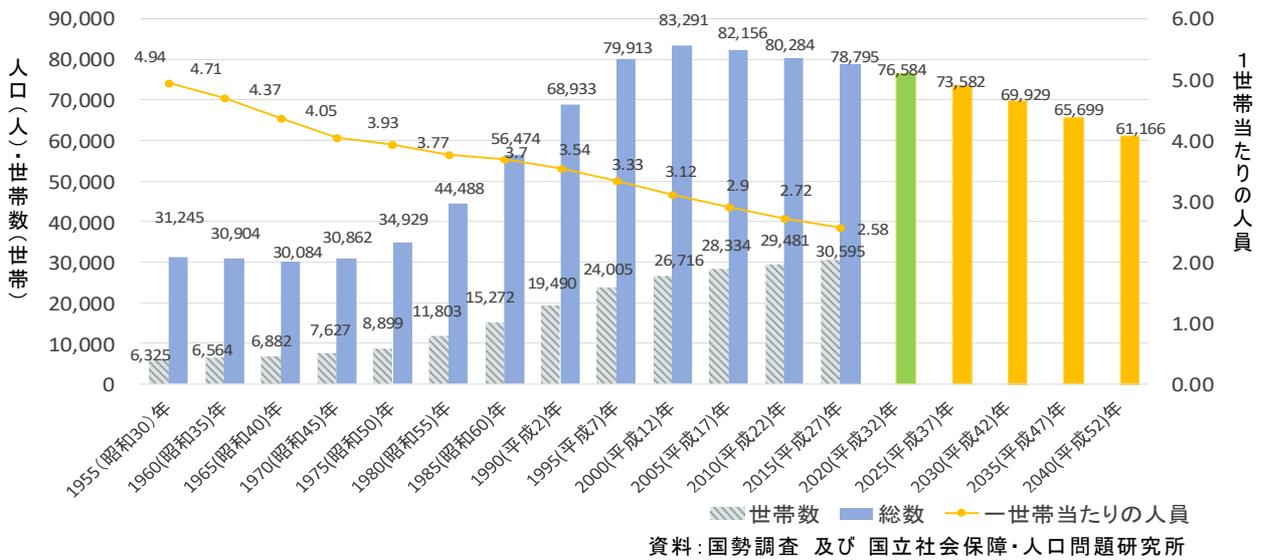


新総合計画の策定に係る各種データ

1. 本市の人口動態

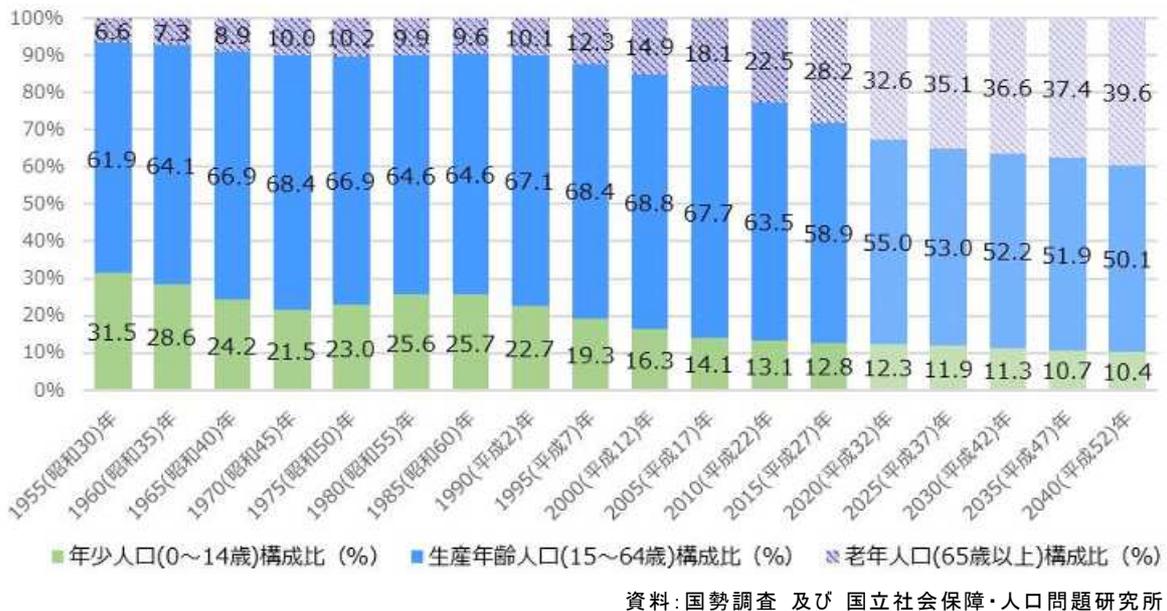
(1) 人口等の推移と見通し

- ・人口は、2000（平成12）年をピークに微減しています。
- ・世帯数は、増加傾向にあります。



(2) 年齢階層別構成比の推移と見通し

- ・本市では、全国平均を上回るスピードで高齢化が進む見通しです。



(3) 出生数・死亡数（自然増減）、合計特殊出生率の推移

- ・ 2000（平成12）年頃までは、出生数・死亡数共に緩やかに増加しました。また、毎年、出生数が死亡数を上回る自然増の傾向にあります。
- ・ 出生数は、2002（平成14）年の741人がピークです。
- ・ 出生数の減少及び死亡数の増加により、2005（平成17）年に自然減に転じて以降、その傾向が継続しています。

<出生数・死亡数の推移>

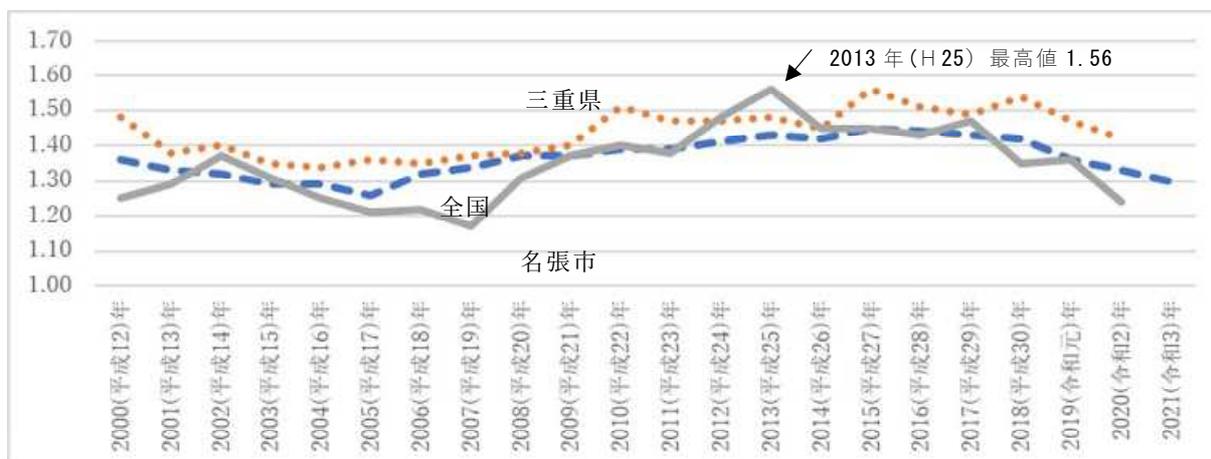
(単位:人)



※名張市統計書より(各年1月1日～12月31日)

<全国・三重県・名張市の合計特殊出生率(★)の推移>

(単位:人)



### <全国・三重県・名張市の合計特殊出生率の推移>

	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
全国	1.36	1.33	1.32	1.29	1.29	1.26	1.32	1.34	1.37	1.37	1.39	1.39	1.41	1.43
三重県	1.48	1.38	1.40	1.35	1.34	1.36	1.35	1.37	1.38	1.40	1.51	1.47	1.47	1.48
名張市	1.25	1.29	1.37	1.31	1.25	1.21	1.22	1.17	1.31	1.37	1.40	1.38	1.48	1.56

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
全国	1.42	1.45	1.44	1.43	1.42	1.36	1.33	1.30
三重県	1.45	1.56	1.51	1.49	1.54	1.47	1.42	-
名張市	1.45	1.45	1.43	1.47	1.35	1.36	1.24	-

(★)合計特殊出生率  
一人の女性(15～49歳)が生涯に産む子どもの数を表した指標

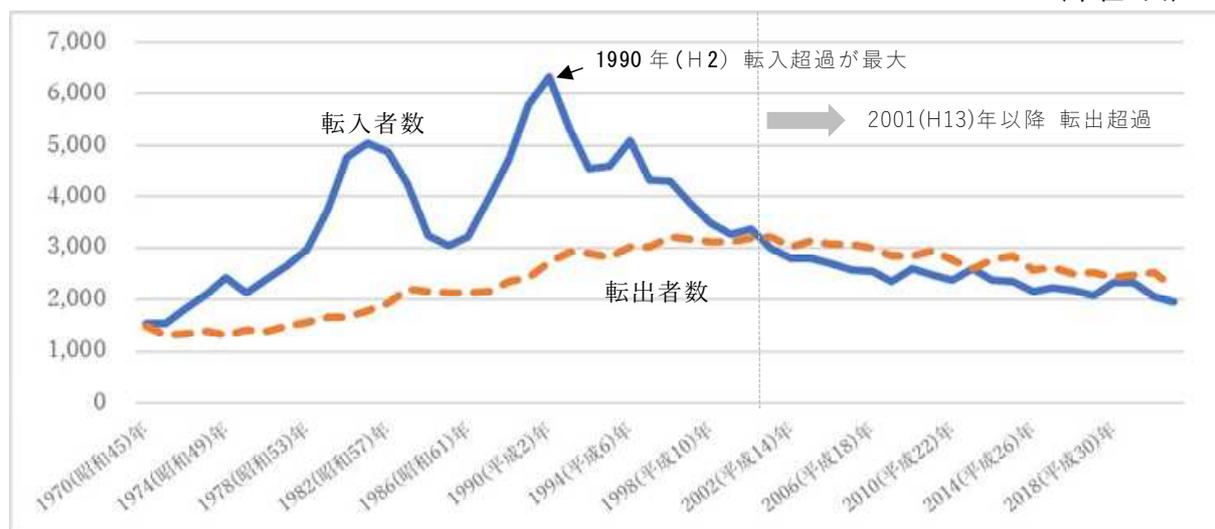
※三重県伊賀保健所年報データより(各年1月1日～12月31日)

#### (4) 転入・転出状況

- ・大規模住宅地開発に伴い、1970(昭和45)年から2000(平成12)年までの間、転入者が増加しました(人口増加)。
- ・1990(平成2)年には6,323人の転入者があり、転出者を差し引いた社会増減で、大幅な転入超過となりました。
- ・2001(平成13)年に224人の転出超過(転入者数3,002人－転出者数3,226人)に転じて以降、その傾向が継続しています。なお、県内からは転入超過の傾向が継続しています。

### <転入者数・転出者数の推移>

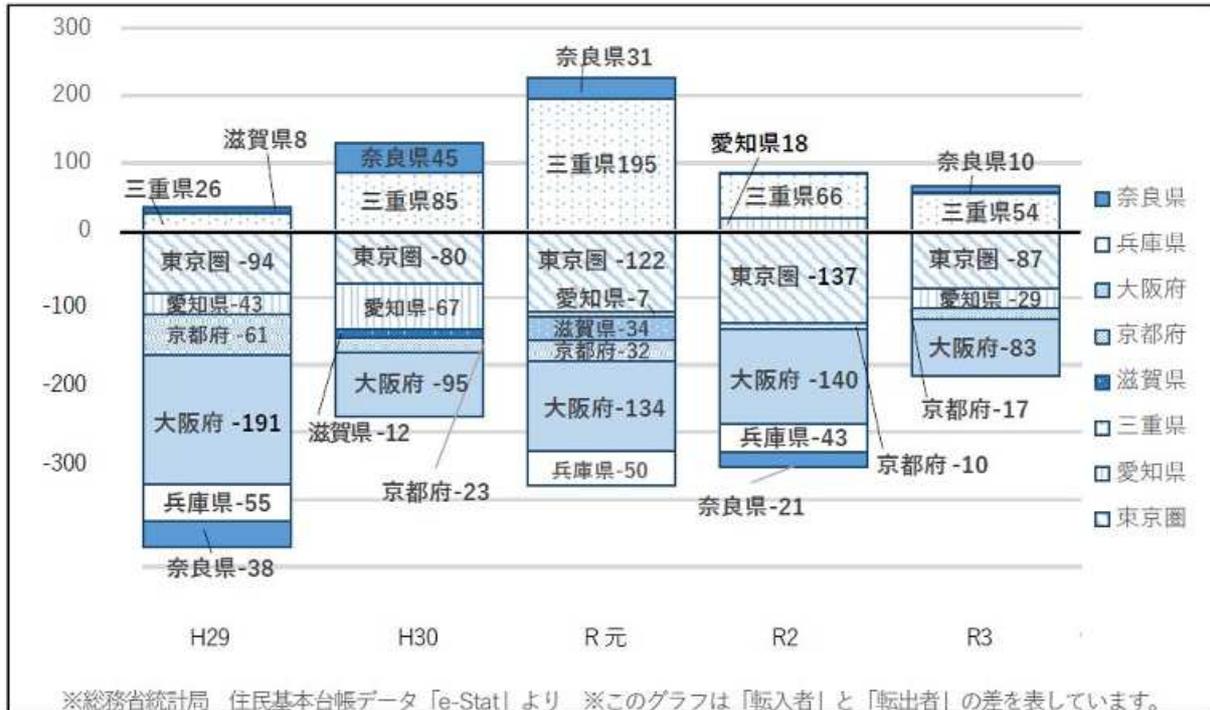
(単位:人)



※名張市統計書より(各年1月1日～12月31日)

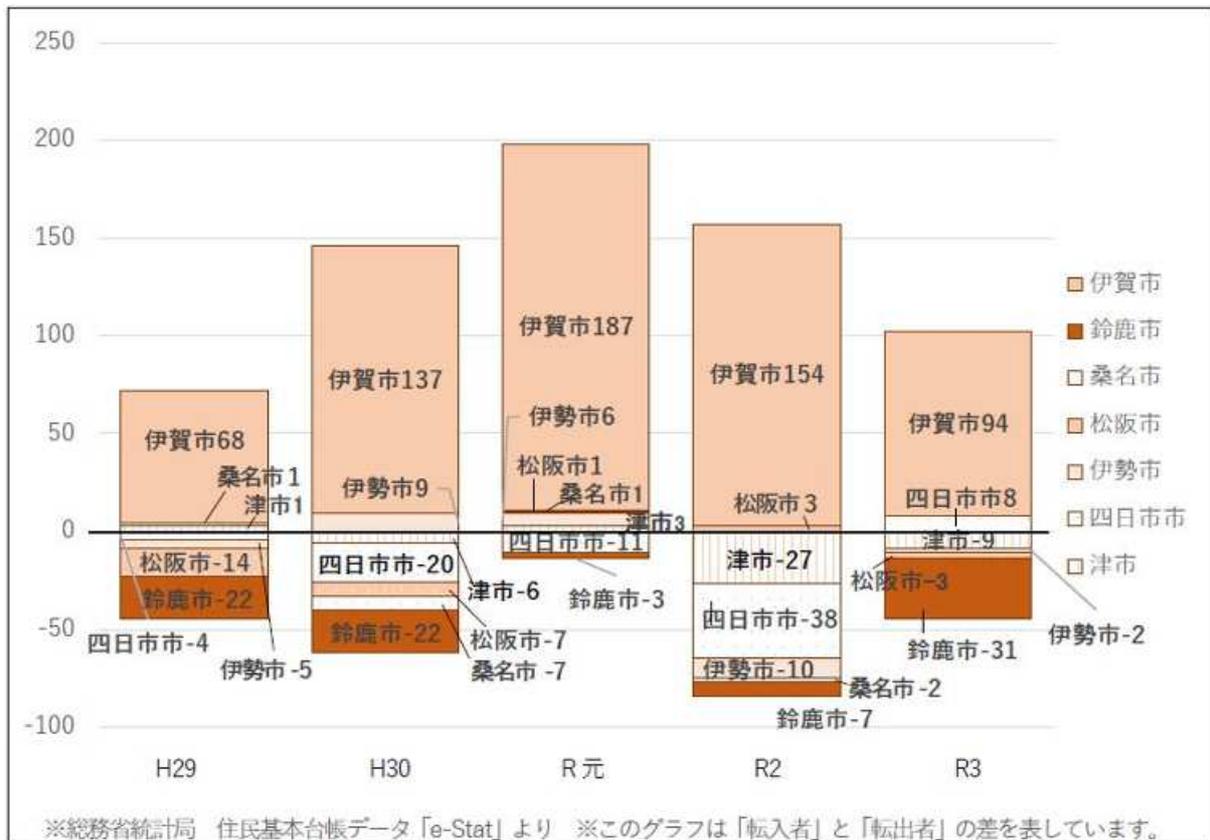
<転入・転出状況(直近5か年)>

(単位:人)



<県内各市町村別の転入・転出状況(直近5か年)>

(単位:人)



＜年齢階層別（日本人・外国人別転入者数・転出者数の推移（直近5か年）＞

（単位：人）

	国籍別	転入 出別	計	年齢階層（歳）					
				0～14	15～29	30～39	40～49	50～64	65～
平成29年	日本人	転入	1,870	252	626	430	229	163	170
		転出	2,397	257	1,021	475	276	186	182
		差引	△527	△5	△395	△45	△47	△23	△12
	外国人	転入	218	11	91	76	24	12	4
		転出	118	2	36	49	20	9	2
		差引	100	9	55	27	4	3	2
平成30年	日本人	転入	1,999	252	654	438	253	223	179
		転出	2,313	252	938	491	252	186	194
		差引	△314	0	△284	△53	1	37	△15
	外国人	転入	319	12	169	86	32	18	2
		転出	124	2	46	46	19	10	1
		差引	195	10	123	40	13	8	1
令和元年	日本人	転入	1,919	232	657	418	252	184	176
		転出	2,292	219	981	448	257	198	189
		差引	△373	13	△324	△30	△5	△14	△13
	外国人	転入	417	18	236	111	37	15	0
		転出	194	2	100	49	25	17	1
		差引	223	16	136	62	12	△2	△1
令和2年	日本人	転入	1,831	232	601	394	226	208	170
		転出	2,259	233	969	436	248	195	178
		差引	△428	△1	△368	△42	△22	13	△8
	外国人	転入	236	9	127	47	32	18	3
		転出	269	10	128	84	32	11	4
		差引	△33	△1	△1	△37	0	7	△1
令和3年	日本人	転入	1,734	191	606	356	201	191	189
		転出	1,969	149	899	373	213	178	157
		差引	△235	42	△293	△17	△12	13	32
	外国人	転入	233	10	113	68	30	10	2
		転出	255	15	116	77	33	11	3
		差引	△22	△5	△3	△9	△3	△1	△1

2. 本市の産業別就業者等の推移

(1) 産業別就業人口及び構成比

- ・第1次産業は、1990（平成2）年から2010（平成22）年までの20年間で半減しました。
- ・第2次産業は総人口のピーク時の2000（平成12）年以降、第3次産業は2005（平成17）年以降減少に転じ、市全体の就業人口も減少傾向にあります。
- ・全国及び三重県の構成比と比較すると、全国との比較では第2次産業の就業者割合が高く、三重県とはほぼ同様の構成となっています。

<本市の産業別就業人口>

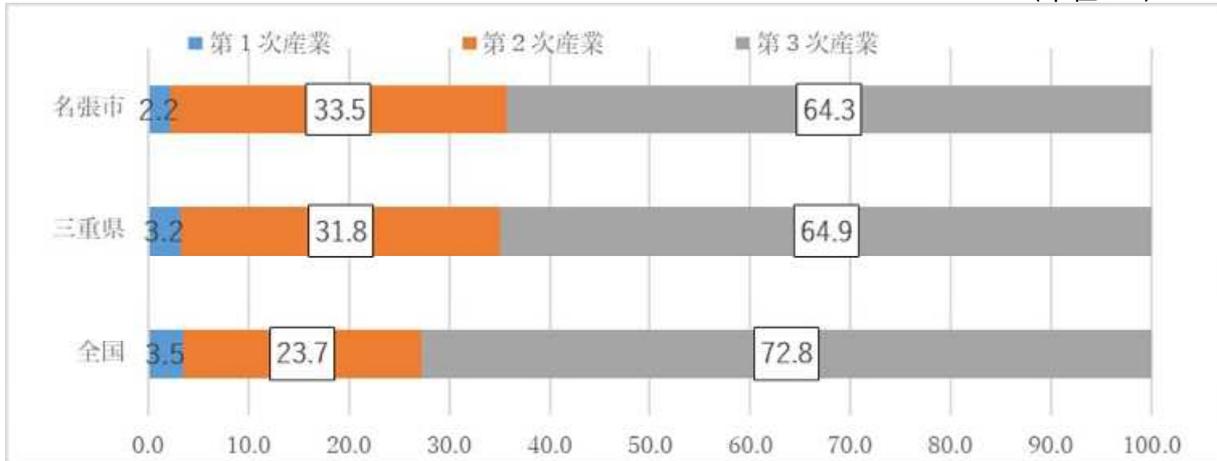
(単位:人)



※国勢調査データより

<本市の産業別就業者構成比(2020(令和2)年)>

(単位:%)



※国勢調査データより

<産業区分>

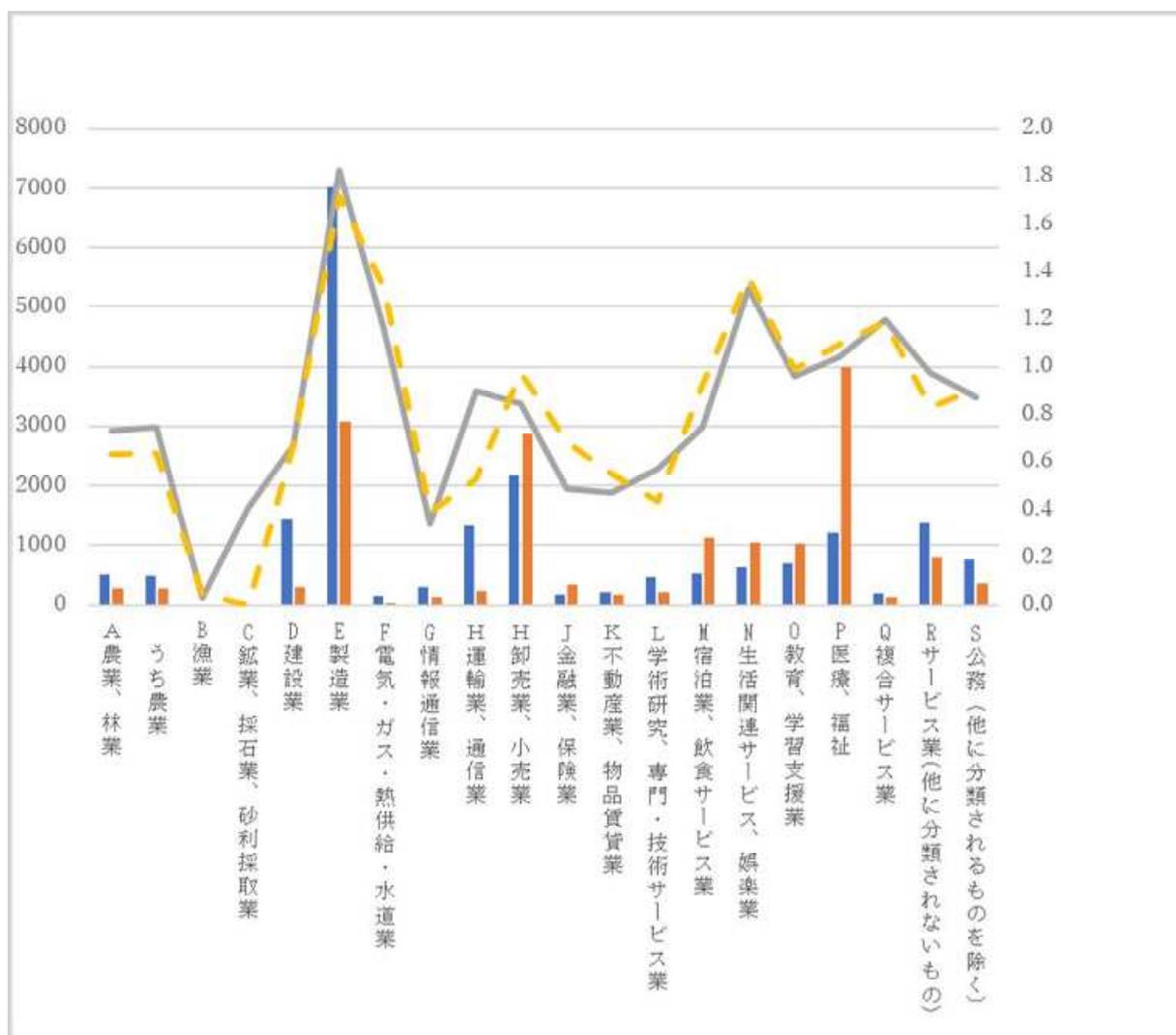
部門	内訳
第1次産業	農業・林業、漁業
第2次産業	鉱業・採石業・砂利採取業、建設業、製造業
第3次産業	電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業・郵便業、卸売業・小売業、金融業・保険業、不動産業・物品賃貸業、学術研究・専門・技術サービス業、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業、教育・学習支援業、医療・福祉、複合サービス事業、サービス業（他に分類されないもの）、公務（他に分類されるものを除きます。）

※国勢調査報告書等を参考に作成しています。

(2) 男女別産業人口と特化係数 (★)

- ・男性は、製造業の就業者数が特に多く、続いて、卸売業・小売業、建設業、運輸業・通信業の就業者数が多い傾向にあります。女性は、医療・福祉、製造業、卸売業・小売業の就業者数が多い傾向にあります。
- ・全国の産業の就業者比率に対する特化係数（本市のX産業の就業者比率／全国のX産業の就業者比率）は、男女共に製造業、生活関連サービス・娯楽業、電気・ガス・熱供給・水道業が高い傾向にあります。

<本市の男女別産業人口と特化係数(2020(令和2)年)>



※国勢調査データより

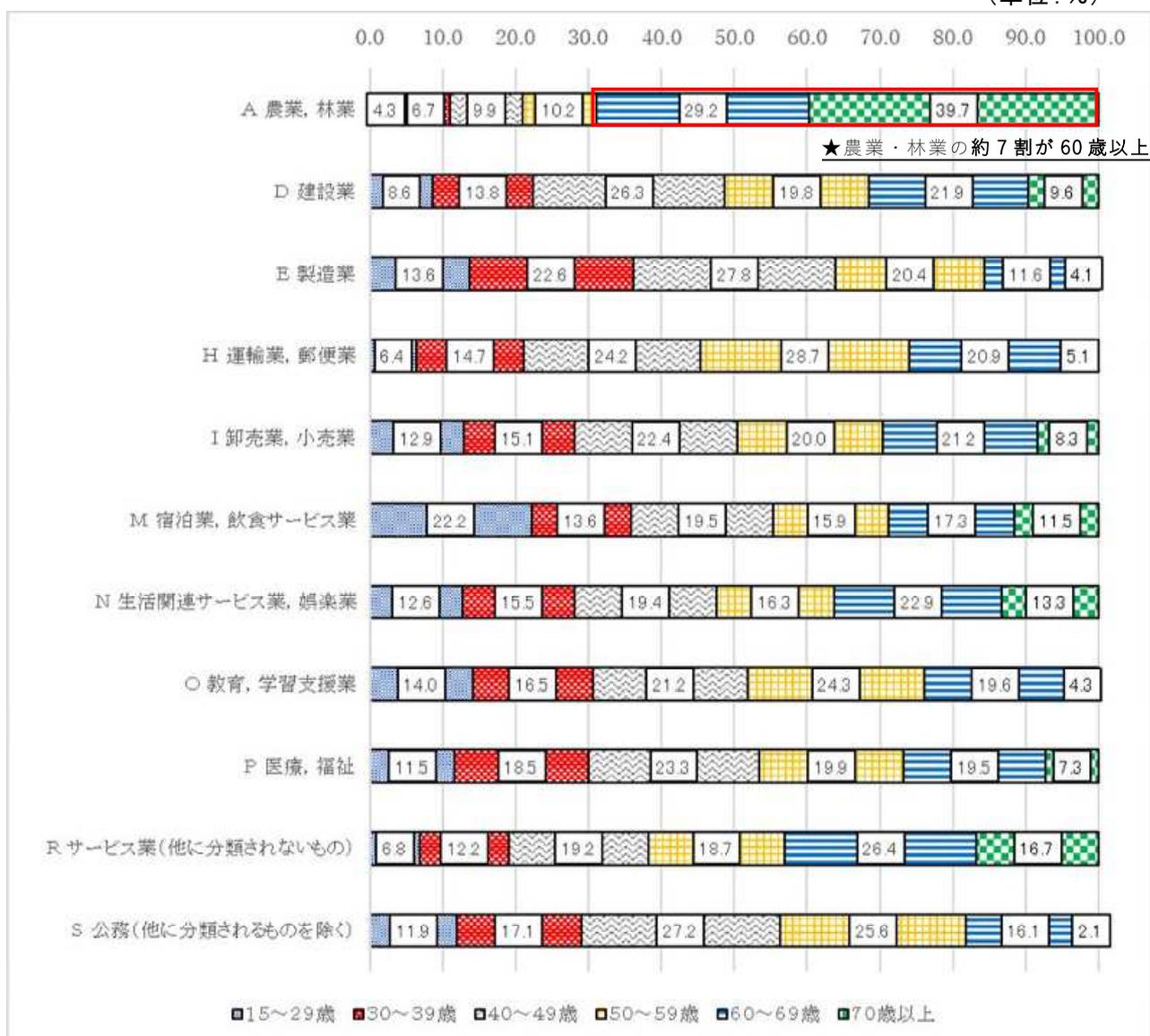
- (★) 特化係数：地域のある産業が、全国と比べてどれだけ特化しているかを見る係数であり、特化係数が1であれば全国と同様、1以上であれば全国と比べてその産業が特化していると考えられる指標です。

### (3) 年齢階級別産業人口の割合

- ・農業・林業における60歳以上の就業者割合が7割を超過しており、急速に就業者数が減少する可能性があります。
- ・最も就業者の多い製造業や、女性の就業者が多い医療・福祉では、年齢構成のバランスが取れています。
- ・宿泊業・飲食サービス業では15～29歳の階級で、公務では50～59歳の階級で、それぞれ他の階級に比べ就業者の割合が高くなっています。

＜本市の年齢階級別産業人口の割合（2020（令和2）年）

（単位：％）



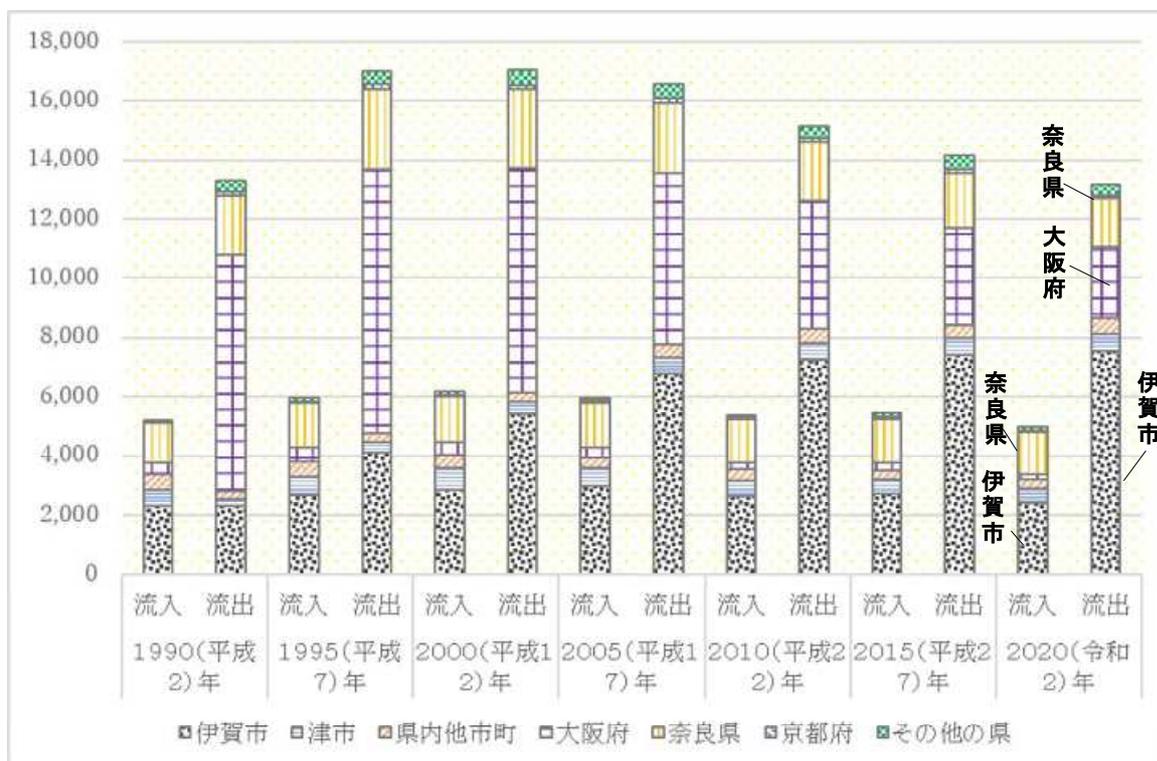
※国勢調査データより

(4) 通勤人口（流入・流出者数）の推移

- ・ 2000（平成12）年頃までは、大阪府や奈良県など関西圏への通勤者が特に多い傾向にありました。
- ・ 2005（平成17）年以降、通勤人口が流入・流出共に減少。関西圏をはじめ他府県への通勤者が減少し、伊賀市や津市など近隣市町村への通勤者が増加しています（職住近接型に移行）。

<通勤人口（流入・流出者数）の推移>

（単位：人）



※国勢調査データより

<市外からの通勤流入人口>

（単位：人）

	1990 (H2)年	1995 (H7)年	2000 (H12) 年	2005 (H17) 年	2010 (H22) 年	2015 (H27) 年	2020 (R2)年
伊賀市	2,299	2,680	2,879	2,989	2,647	2,717	2,444
津市	581	602	728	600	526	470	452
県内各市町	485	536	435	367	362	315	291
大阪府	409	473	404	309	246	255	198
奈良県	1,346	1,497	1,554	1,542	1,437	1,487	1,399
京都府	35	44	56	59	47	62	51
その他府県	43	114	123	102	102	144	120
計	5,198	5,946	6,179	5,968	5,367	5,450	4,955

※国勢調査データより

<市外への通勤流出人口>

(単位:人)

	1990 (H2)年	1995 (H7)年	2000 (H12) 年	2005 (H17) 年	2010 (H22) 年	2015 (H27) 年	2020 (R2)年
伊賀市	2,297	4,104	5,392	6,799	7,250	7,413	7,560
津市	275	366	459	540	571	578	563
県内他市町	226	300	294	438	484	415	575
大阪府	7,983	8,898	7,597	5,776	4,298	3,290	2,368
奈良県	2,018	2,745	2,639	2,370	2,043	1,852	1,610
京都府	108	159	162	181	130	126	118
その他府県	369	416	491	452	390	470	357
計	13,276	16,988	17,034	16,556	15,166	14,144	13,151

※国勢調査データより

3. 市民意識調査の結果

(1) 調査の概要

調査地域：名張市全域

調査対象：市内在住の18歳以上の方、2,850人

抽出方法：住民基本台帳に基づく無作為抽出

調査期間：2022（令和4）年2月18日～3月18日

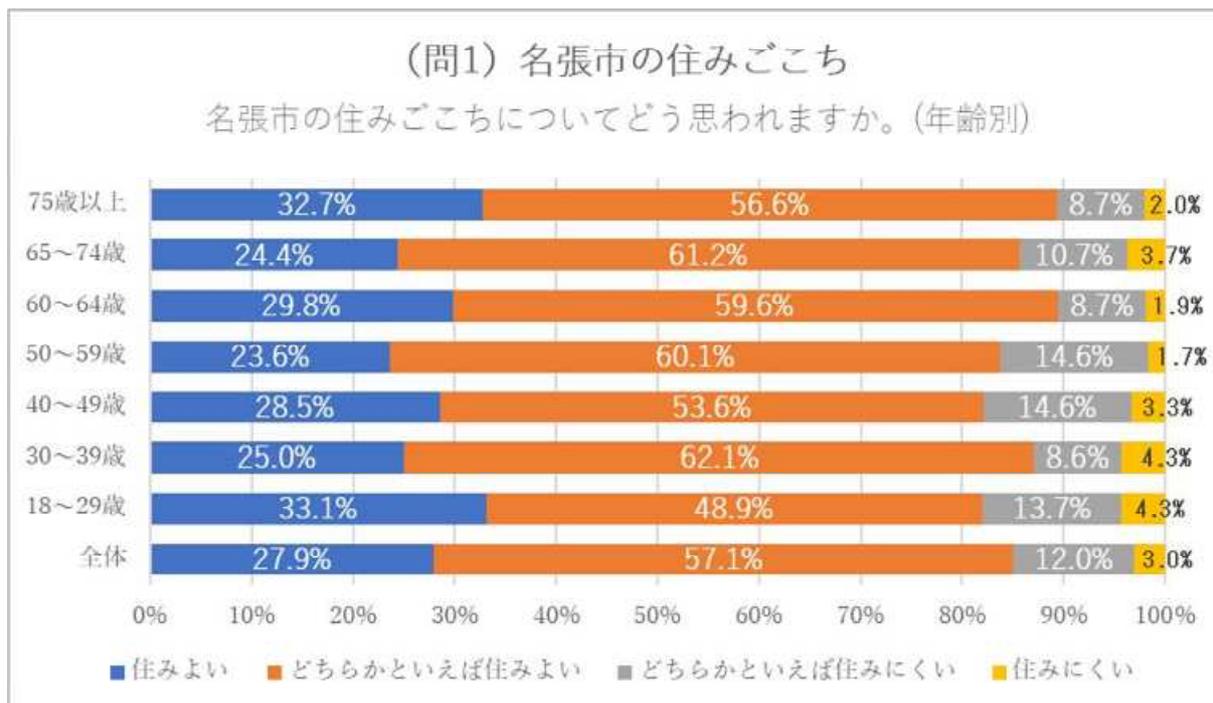
調査方法：郵送による配布・回収、WEBによる回収

回収結果：有効回収数 1,286人（45.1パーセント）

(2) 主な調査結果

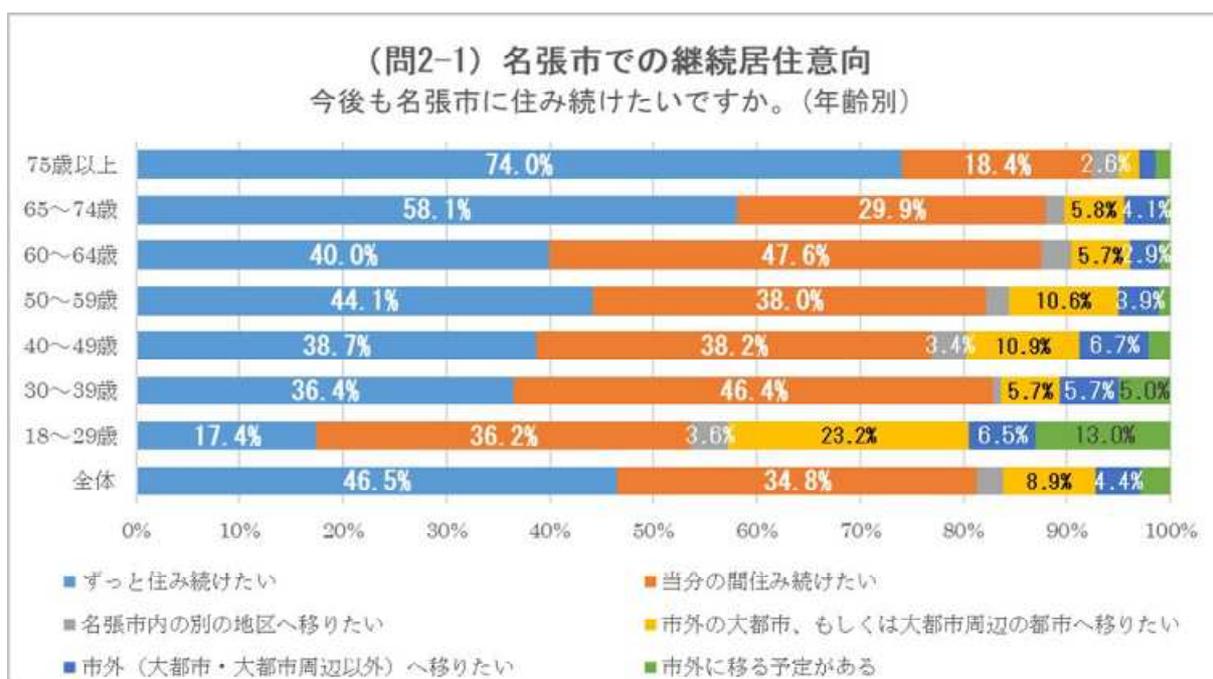
ア. 名張市の住みごころ

- ・85.0パーセントの人が「住みごころがよい」と思っています。
- ・どの年代も8割以上の方が「住みごころがよい」と回答しています。



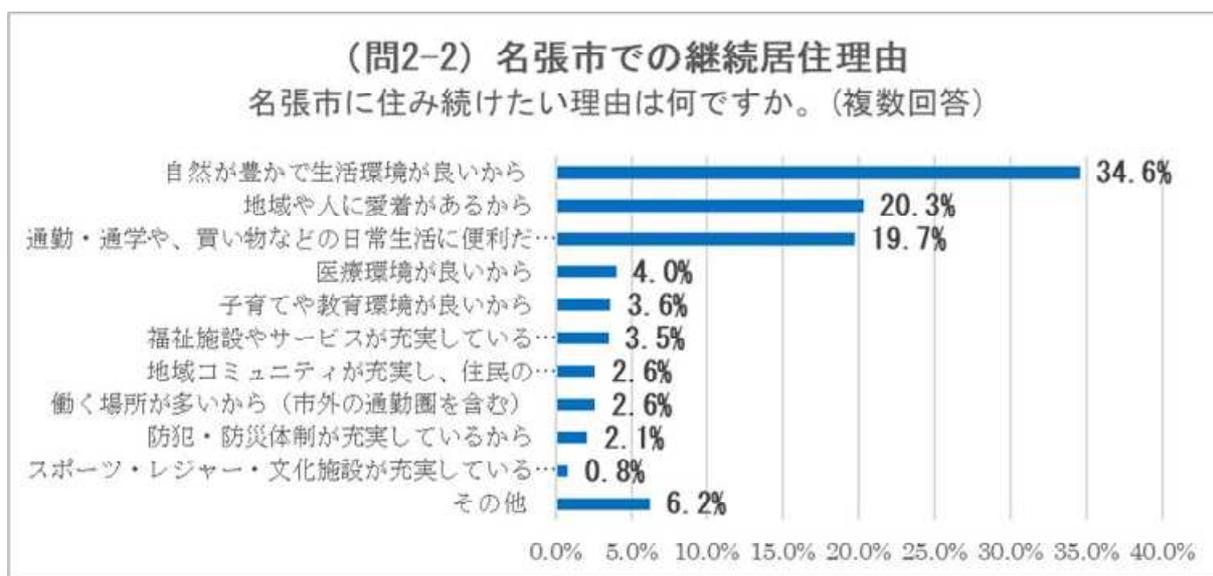
#### イ. 名張市での継続居住意向

- ・ 83.8パーセントの人が、「市内に住み続けたい」と思っています。
- ・ 18～29歳を除く全ての年代で、8割以上の人が「市内に住み続けたい」と回答しています。



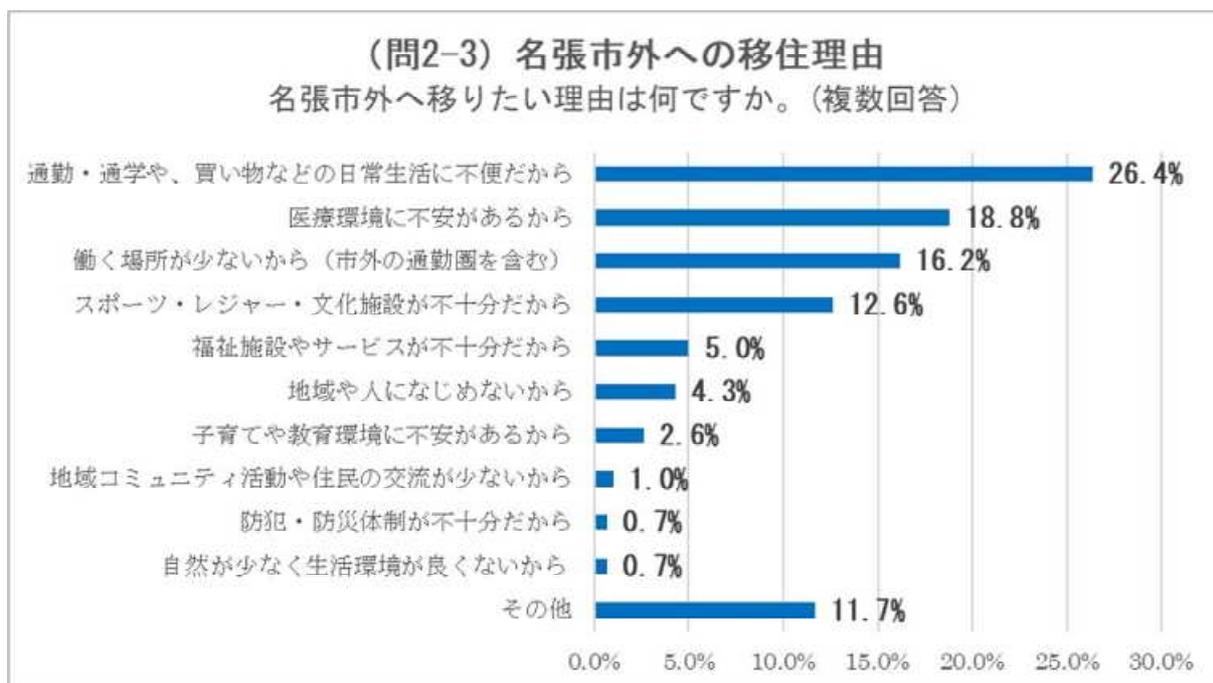
ウ. 名張市での継続居住理由

- ・名張市に住み続けたいと思っている人は、自然豊かな生活環境であったり、地域や人への愛着を理由にしています。
- ・その他意見では「持ち家」や「職場」が名張にあることを理由に挙げる人が多くありました。



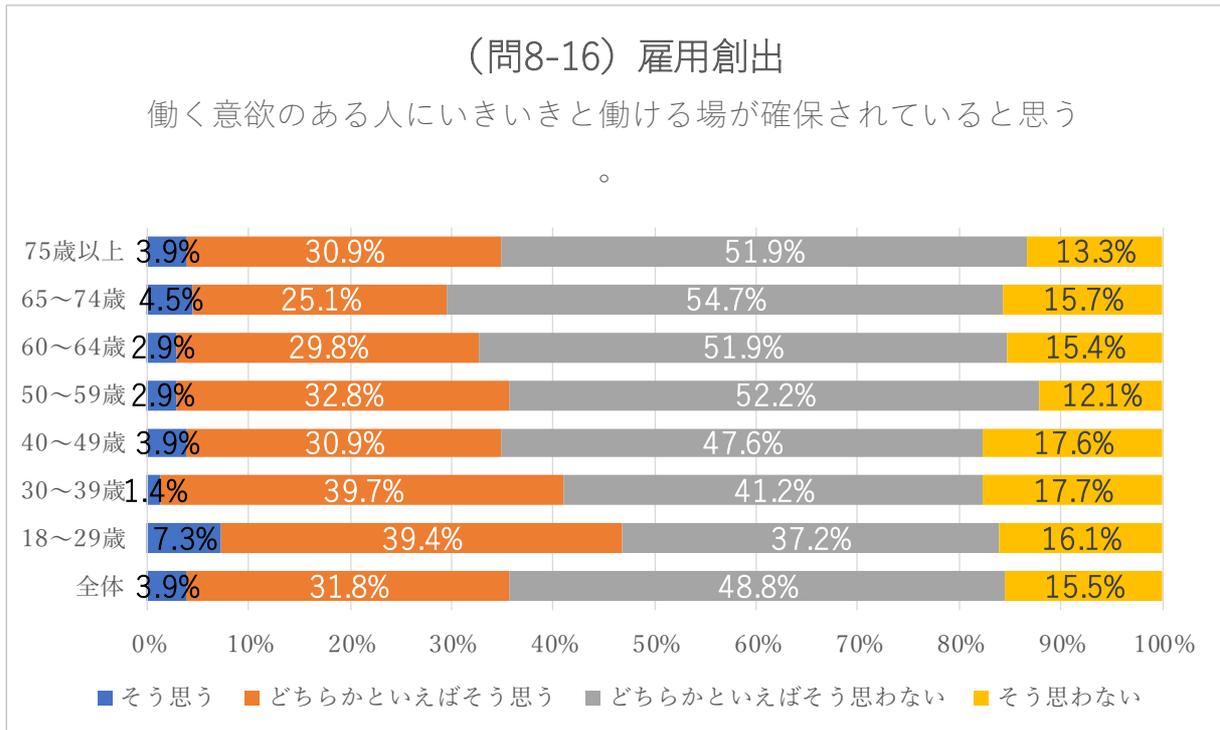
エ. 名張市外への移住理由

- ・名張市外へ移りたいと思っている人は、日常生活の不便さや医療環境への不安などを理由にしています。
- ・その他意見では「就職・転職のため」、「実家へ帰る」が多くありました。



オ. 雇用創出

- ・ 64.3パーセントの人が「働く意欲のある人にいきいきと働ける場が確保されていない」と思っています。
- ・ 年齢別では、65歳～74歳の人が「働く意欲のある人にいきいきと働ける場が確保されていない」と回答した割合が一番高くなっています。

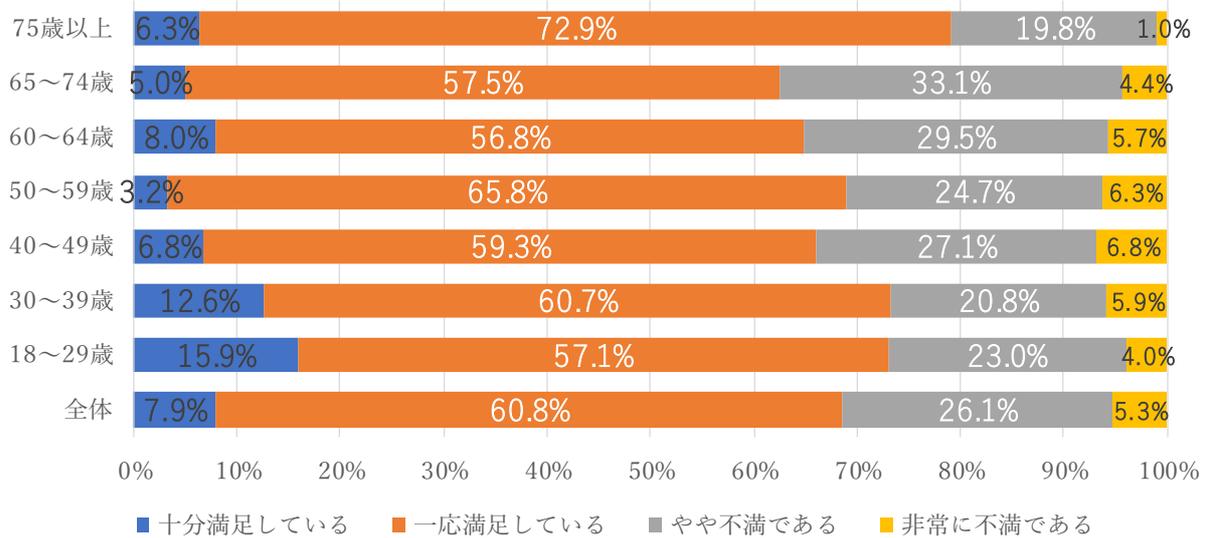


カ. 子育て・子ども支援

- ・ 68.7パーセントの人が市内の子育て支援施策に満足しています。
- ・ 年齢別では、18～29歳の人の73.0パーセントが「市内の子育て支援に満足している」と回答しています。

### (問10-3) 子育て・子ども支援

保育施設や子育てサービス、相談窓口等の子育て支援施策について

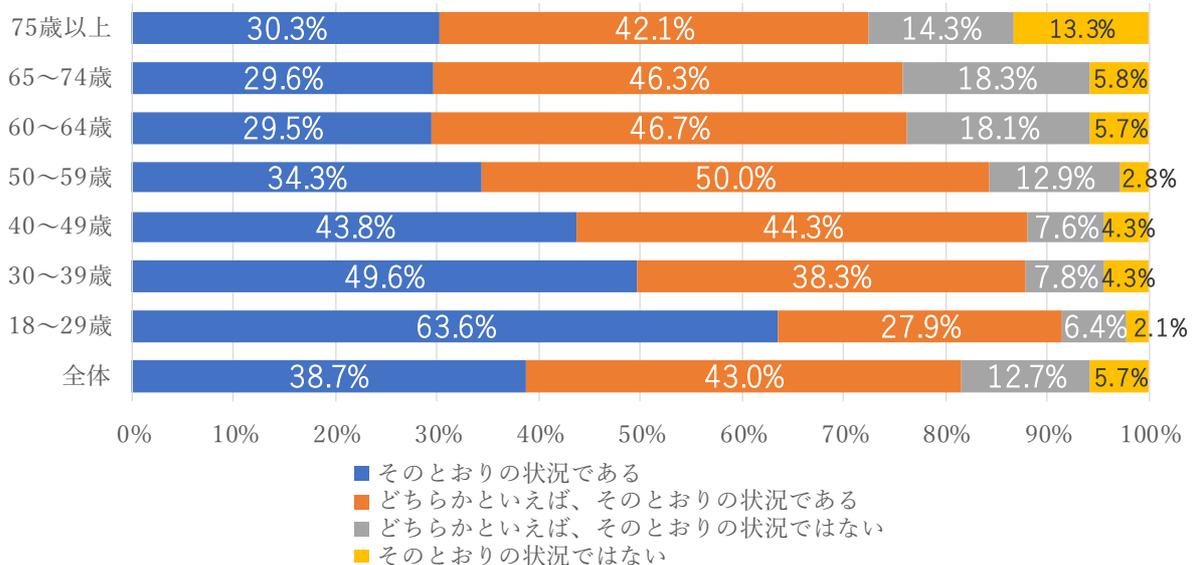


#### キ. 健康づくり

- ・ 81.7パーセントの人が「自分は健康である」と感じています。
- ・ 年齢別では18～29歳の人の9割以上が「自分は健康である」と感じています。

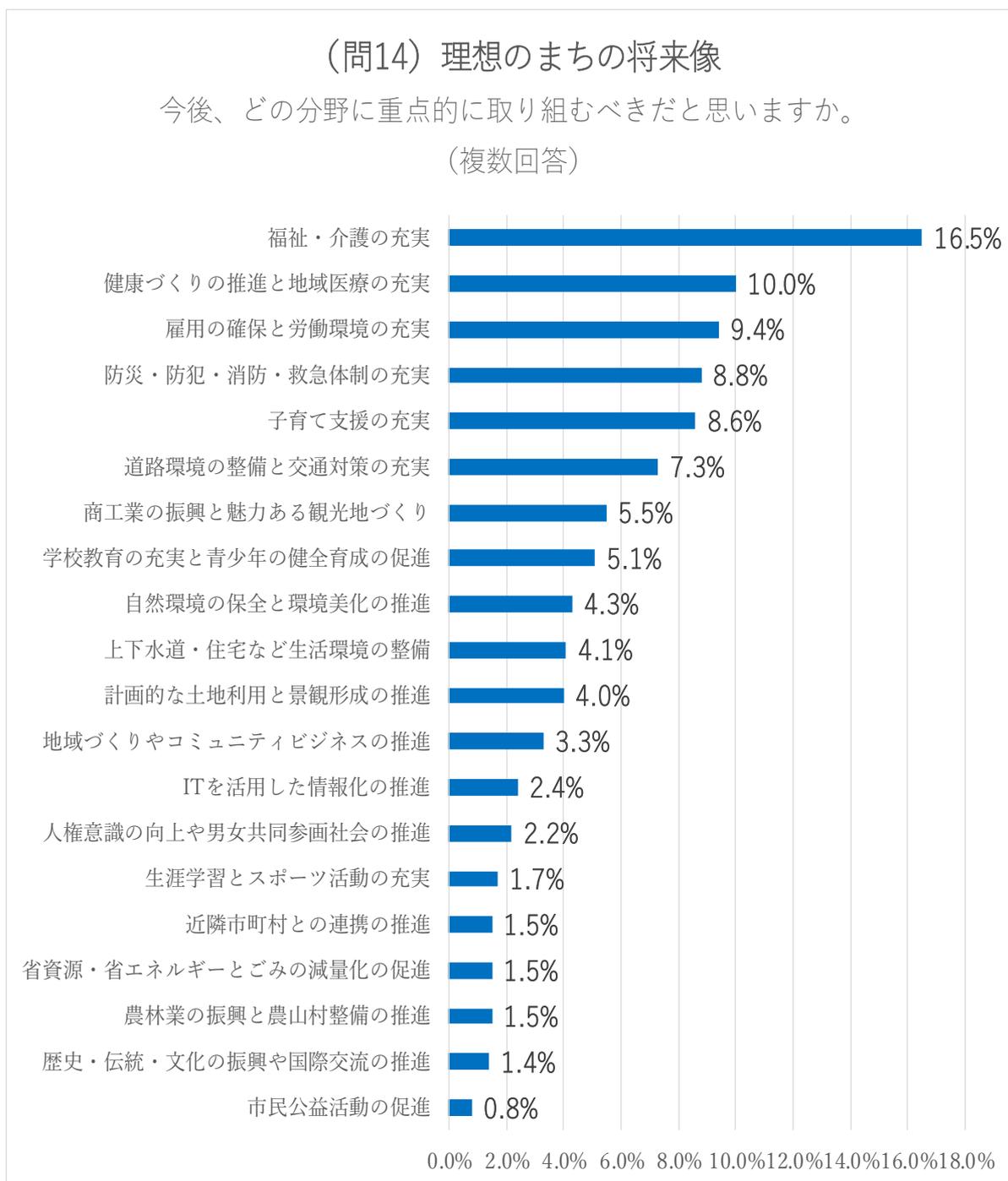
### 健康づくり (問9-2)

現在、自分は健康である。



## ク. 理想のまちの将来像

- ・多くの市民が、今後「福祉・介護の充実」「健康づくりの推進と地域医療の充実」「雇用の確保と労働環境の充実」に重点的に取り組むべきだと回答しています。



(3) 自由意見

記載のあった人数：545人（回収数 1, 286人）

自由意見欄記載率：42.4パーセント

自由意見件数：延べ777件

<自由意見施策別件数(上位10施策)>

施策	件数等	主な意見
1. 「新・理想郷プラン」の推進	103件 (13.3%)	○若い人が住み続けたいと思う魅力ある町づくりを行ってほしい。 ○住民を増やす・人を呼び込む政策について検討してほしい。 ○少子高齢化対策に取り組んでほしい。
2. 交通計画	80件 (10.3%)	○車の運転が出来なくなった時、買い物や病院への移動をどうするか不安に思う。 ○コミュニティバスの運行を増やしてほしい。 ○ナッキー号が通るルートを増やしてほしい。
3. 地域医療	76件 (9.8%)	○救急の輪番制について、不安に思う。 ○産婦人科が少ない。 ○高度な医療が受けられるよう、医療体制を充実してほしい。
4. 商工経済	61件 (7.9%)	○同じようなお店ばかりでなく、映画館や大型ショッピングモールを作りたい。 ○桔梗が丘駅前の土地を活用し、駅前を活性化させてほしい。
5. 道路整備	53件 (6.8%)	○歩道が無く、危険に感じる場所があるので整備してほしい。 ○道路のでこぼこ等を直してほしい所が多い。
6. 学校教育	37件 (4.8%)	○中学校給食を実現してほしい。 ○小・中学校のトイレを改修してほしい。
7. 子育て・子ども支援	36件 (4.6%)	○気軽に相談できる機会やつながりやすさ・支援体制の強化をしてほしい。 ○妊娠・出産時の手当や子育て世帯に対する手当を拡充してほしい。
8. 持続可能な財政運営	33件 (4.3%)	○都市振興税の上乗せを廃止してほしい。 ○名張の財政難が心配。
9. 高齢者福祉	25件 (3.2%)	○高齢になり施設入所を希望した時、入れる施設が見つかるか不安に思う。 ○高齢者が安心して暮らせるような取組みを考えてほしい。
10. 成熟社会に対応する行政運営	25件 (3.2%)	○職員の対応について不快に感じることもあるため、意識改革や知識の深化を図ってほしい。 ○職員数の検討や、行政の効率化を図るべき。